

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2022.5.16-22**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

7:25 処女のことについて、私は主の命令を受けてはいませんが、主のあわれみによって信頼できる者として、意見を述べます。

7:26 現在の危急のときには、男はそのままの状態にとどまるのがよいと思います。

7:27 あなたが妻に結ばれているなら、解かれないと考えてはいけません。妻に結ばれていないのなら、妻を得たいと思ってはいけません。

7:28 しかし、たとえあなたが結婚したからといって、罪を犯すわけではありません。たとえ処女が結婚したからといって、罪を犯すわけではありません。ただ、それらの人々は、その身に苦難を招くでしょう。私はあなたがたを、そのようなめに会わせたくないのです。

7:29 兄弟たちよ。私は次のことを言いたいです。時は縮まっています。今からは、妻のある者は、妻のない者のようにしていなさい。

7:30 泣く者は泣かない者のように、喜ぶ者は喜ばない者のように、買う者は所有しない者のようにしていなさい。

7:31 世の富を用いる者は用いすぎないようにしなさい。この世の有様は過ぎ去るからです。

7:32 あなたがたが思い煩わないことを私は喜んで見ます。独身の男は、どうしたら主に喜ばれるかと、主のことに心を配ります。

7:33 しかし、結婚した男は、どうしたら妻に喜ばれるかと世のことに心を配り、

7:34 心が分かれるのです。独身の女や処女は、身もたましいも聖くなるため、主のことに心を配りますが、結婚した女は、どうしたら夫に喜ばれるかと、世のことに心を配ります。

7:35 ですが、私がこう言っているのは、あなたがた自身の益のためであって、あなたがたを束縛しようとしているではありません。むしろあなたがたが秩序ある生活を送って、ひたすら主に奉仕できるためなのです。

7:36 もし、処女である自分の娘の婚期も過ぎようとしていて、そのままでは、娘に対しての扱い方が正しくないと思い、またやむをえないことがあるならば、その人は、その心のままにしなさい。罪を犯すわけはありません。彼らに結婚させなさい。

7:37 しかし、もし心のうちに堅く決意しており、ほかに強いられる事情もなく、また自分の思うとおりに行なうことのできる人が、処女である自分の娘をそのままにしておくのなら、そのことはりっぱです。

7:38 ですが、処女である自分の娘を結婚させる人は良いこととをしているのであり、また結婚させない人は、もっと良いことをしているのです。

7:39 妻は夫が生きている間は夫に縛られています。しかし、もし夫が死んだなら、自分の願う人と結婚する自由があります。ただ主にあつてのみ、そうなのです。

7:40 私の意見では、もしそのままにいられたら、そのほうがもっと幸いです。私も、神の御霊をいただいていると思います。

クリスチャンや教会のあり方が聖書的であるということは何よりも重要なことです。どんな人間的な事情があろうとも、人間を越えた不思議な現象があったとしても、聖書から離れてしまつては、神の栄光も勝利も、解決も前進も、維持も存続も望めません。そればかりか異端となって神に敵対するものにならないとも限りません。

当然パウロは聖書的です。しかし聖書があらゆる時代のすべての事柄に指示を与えているわけではありません。そこでパウロは「主のあわれみによって信頼できる者として、意見を述べ」ています。これもまた聖書的な態度です。ただしそれは「信頼」が必要です。信仰の共同体の中で認められる必要があります。「危急のとき」とは終末が考えられていたわけですが、その後の迫害に関しても聖霊は考えておられ、結婚のことをパウロに語らせたのでしょう。様々な事例に共通するように、結婚はただ自分の願いを優先させるのではなく、主のみこころと主のときを熟慮し、主の栄光と証のためにするべきです。

しかし「束縛しようとしているではありません。」とあるように、結婚は個人の意思が尊重されるものです。そしてそれだけに強くて確かな聖書の信仰が必要なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



## ▶17日 火曜

### コリント I

8:1 次に、偶像にささげた肉についてですが、私たちはみな知識を持っているということなら、わかっています。しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます。

8:2 人がもし、何かを知っていると思ったら、その人はまだ知らなければならぬほどのことも知ってはいけません。

8:3 しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのです。

8:4 そういうわけで、偶像にささげた肉を食べることについてですが、私たちは、世の偶像の神は実際にはないものであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています。

8:5 なるほど、多くの神や、多くの主があるので、神々と呼ばれるものならば、天にも地にもありますが、

8:6 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。

8:7 しかし、すべての人にこの知識があるわけではありません。ある人たちは、今まで偶像になじんで来たため偶像にささげた肉として食べ、それで彼らのそのように弱い良心が汚れるのです。

8:8 しかし、私たちを神に近づけるのは食物ではありません。食べなくても損にはならないし、食べても益にはなりません。

8:9 ただ、あなたがたのこの権利が、弱い人



たちのつまずきとにならないように、気をつけなさい。

8:10 知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのをだれかが見たら、それによって力を得て、その人の良心は弱いのに、偶像の神にささげた肉を食べるようなことにならないでしょうか。

8:11 その弱い人は、あなたの知識によって、滅びることになるのです。キリストはその兄弟のためにも死んでくださったのです。

8:12 あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を踏みにじるとき、キリストに対して罪を犯しているのです。

8:13 ですから、もし食物が私の兄弟をつまずかせるなら、私は今後いっさい肉を食べません。それは、私の兄弟につまずきを与えないためです。

コリントのような異教の街に住む者は常に偶像とのせめぎ合いになりました。食品も偶像にささげられたものが口に入ることがあったので、そのことの是非が議論になっていたのでしょう。知識のある人は「偶像の神は実際にはないものである」と知っているのに気にしないが、「信仰の弱い人」は何か偶像の影響があるのではないかと恐れて（または気持ち悪くて）食べないというのです。

しかしここで大切なことをパウロは冒頭に語ります。「知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建て」というのです。神学的に問題ないという知識があっても、それを押し通すのではなく、愛をもって信仰の弱い人を配慮し、その信仰に悪影響を与えないようにしてあげるのが、つまりつまずきを与えないようにすることが最も大切なことであるということです。

クリスチャンであっても未だに偶像断ち切れない人も弱いと言えますが、偶像を断ち切った後も何か偶像を気にしてしまう人もいて、そういう人をパウロは「弱い人たち」と表現します。そのような人々の「つまずきとにならないように、気をつけなさい。」とパウロは愛によって語っています。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:1 私には自由がないのでしょうか。私は使徒ではないのでしょうか。私は私たちの主イエスを見たのではないのでしょうか。あなたがたは、主にあって私の働きの実ではありませんか。

9:2 たとい私がほかの人々に対しては使徒でなくても、少なくともあなたがたに対しては使徒です。あなたがたは、主にあって、私が使徒であることの証印です。

9:3 私をさばく人々に対して、私は次のように弁明します。

9:4 いったい私たちには飲み食いする権利がないのでしょうか。

9:5 私たちには、ほかの使徒、主の兄弟たち、ケパなどと違って、信者である妻を連れて歩く権利がないのでしょうか。

9:6 それともまた、私とバルナバだけには、生活のための働きをやめる権利がないのでしょうか。

9:7 いったい自分の費用で兵士になる者がいるのでしょうか。自分でぶどう園を造りながら、その実を食べない者がいるのでしょうか。羊の群れを飼いながら、その乳を飲まない者がいるのでしょうか。

9:8 私がこんなことを言うのは、人間の考えによって言っているのでしょうか。律法も同じことを言っているではありませんか。

9:9 モーセの律法には、「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない。」と書いてあります。いったい神は、牛のことを気にかけておられるのでしょうか。

9:10 それとも、もっぱら私たちのために、こう言うておられるのでしょうか。むろん、私

たちのためにこう書いてあるのです。なぜなら、耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分配を受ける望みを持って仕事をするのは当然だからです。

9:11 もし私たちが、あなたがたに御霊のものを蒔いたのであれば、あなたがたから物質的なものを刈り取ることは行き過ぎでしょうか。

9:12 もし、ほかの人々が、あなたがたに対する権利にあずかっているのなら、私たちはなおさらその権利を用いてよいはずではありませんか。それなのに、私たちはこの権利を用いませんでした。かえって、すべてのことについて耐え忍んでいます。それは、キリストの福音に少しの妨げも与えないとしてなのです。

次にパウロは献身と報酬について述べます。パウロはピリピの教会からは献金によって支えられることを「霊的祝福」として喜びましたが、コリント教会からは何も受けませんでした。コリント教会の信仰がまだ成熟していなかったからです。

しかしそれでコリントの人々の中には、パウロが献金を受けていないのは使徒ではないからだ、その權威を疑う人もいました。ほかの使徒たちは「生活のための働きをやめ」て、献金によって生活していたからです。

それに対してパウロは自分にはその権利があるということ、兵士、農夫、そして「私たちのために」書いてあるという「穀物をこなしている牛」を例にあげて主張しています。

主のために奉仕する者はすばらしい報酬にあずかる権利があるので、それを否定する必要はありません。ある人は経済的な面で、また霊的な祝福で、さらには生活などの面で、さまざまに祝福があるのです。

それとともに、その権利を用いなくて耐え忍ぶ

人を尊重する必要があります。彼らは決してその権利がないのではなく、主の栄光のために判断しているのです。またもしかしたら私たちの信仰の足りなさのゆえに、その人と重荷を分かち合えないでいるのかもしれない。パウロのように主のために忍んでいる人を尊重し、またその重荷を担い合いましょ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:13 あなたがたは、宮に奉仕している者が宮の物を食べ、祭壇に仕える者が祭壇の物にあずかることを知らないのですか。

9:14 同じように、主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活のささえを得るように定めておられます。

9:15 しかし、私はこれらの権利の一つも用いませんでした。また、私は自分がそうされたくてこのように書いているのでもありません。私は自分の誇りをだれかに奪われるよりは、死んだほうがましだからです。

9:16 というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならぬことだからです。もし福音を宣べ伝えなかったら、私はわざわざに会います。

9:17 もし私がこれを自発的にしているのなら、報いがありましょう。しかし、強いられたにしても、私には務めがゆだねられているのです。

9:18 では、私にどんな報いがあるのでしょうか。それは、福音を宣べ伝えるときに報酬を求めないで与え、福音の働きによって持つ自分の権利を十分に用いないことなのです。

宮に奉仕する祭司が、その奉納物やいけにえから相当の部分を受け取るように神様は定められました。祭司たちはそれらを売るなどして生活をしていました。また直接の記録はありませんが、主イエスはフルタイムの働き人たちには「福音の働きから生活のささえを得るように」ご命令なさったようです。そして実際そのようにして教会・宣教が成り立っ

てきました。

しかしパウロは、「私はこれらの権利の一つも用いませんでした。」と語ります。第一にそれは誇りだからです。報酬を求めないことがパウロの誇りであって、それは自分が報酬のためではなく主のために働いているという証しとなるからでしょう。

第二にそれは義務であるからです。主から永遠の赦しと救いをいただいたので、それを人に伝えるのは特別にすばらしい働きというよりも、当たり前にするべきことと考えたのです。

第三にそれは無報酬の満足感です。無報酬であることによって、報酬を受けるときの喜びよりも、伝えるときや救われるときの喜びを際立たせたいとの思いがあったのでしよう。

主のために働く者に主は良いものを惜しまれません。しかしまた私たちは「報いがなくとも主のために働くのだ」という決心、主が喜ばれることが私の満足だという思いが必要です。それは主を愛するということなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





9:19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。

9:20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者となりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。

9:21 律法を持たない人々に対しては、・・・私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが、・・・律法を持たない者となりました。それは律法を持たない人々を獲得するためです。

9:22 弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。

9:23 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをとともに受ける者となるためなのです。

9:24 競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。

9:25 また闘技をする者は、あらゆることにについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるためにそうするのです。

9:26 ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはしません。

9:27 私は自分のからだを打ちたたいて従わ

ます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。

これまで述べて来たことをまとめるようにして、パウロは自分の生き方を宣言しています。相手がどんな人であれ、その人の立場に自分の身を置くということです。割礼のある人となない人、結婚している人としていない人、奴隷と自由人、偶像の肉を食べる人とそれを気にする人、フルタイムの使徒とそれを支える教会員、権利を行使する人とならない人などなど、同じクリスチャンといってもあらゆる立場・状態の人がいます。パウロはここで全てのクリスチャンに共通する大切な生き方を教えているのです。

そしてそれは伝道にも言えることです。相手の心を思いやり、その立場に立たなければ、愛の心を伝えることはできませんし、十字架のメッセージから愛を伝えることはできません。

しかしここで忘れてはならない大切なことは、ノンクリスチャンや世の中に妥協して、自分の保身を図るのは全く違うということです。自分はむしろ奴隷のようになることなのです。ノンクリスチャンに妥協して楽になることではありません。むしろ「自分のからだを打ちたたいて従わせず。」というように、苦しい努力が求められるのです。

人生にあって私たちは楽にしていれば良いということは少なく、むしろリスクを負って挑戦して勝利を勝ち取って行かなければならないことが多いのです。ならばパウロのように「朽ちない冠を受けるために」、働きの「失格者」とならないように、自分を「従わせて」行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 21日 土曜

### コリント I

10:1 そこで、兄弟たち。私はあなたがたにぜひ次のことを知ってもらいたいです。私たちの先祖はみな、雲の下におり、みな海を通過して行きました。

10:2 そしてみな、雲と海とで、モーセにつくバプテスマを受け、

10:3 みな同じ御霊の食べ物を食べ、

10:4 みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです。

10:5 にもかかわらず、彼らの大部分は神のみどころにかなわず、荒野で滅ぼされました。

10:6 これらのことが起こったのは、私たちへの戒めのためです。それは、彼らがむさぼったように私たちが悪をむさぼることのないためです。

10:7 あなたがたは、彼らの中のある人たちにならなくて、偶像崇拝者となてはいけません。聖書には、「民が、すわっては飲み食いし、立っては踊った。」と書いてあります。

10:8 また、私たちは、彼らの中のある人たちが姦淫をしたのにならって姦淫をすることはないようにしましょう。彼らは姦淫のゆえに一日に二万三千人死にました。

10:9 私たちは、さらに、彼らの中のある人たちが主を試みたのにならって主を試みることないようにしましょう。彼らは蛇に滅ぼされました。

10:10 また、彼らの中のある人たちがつぶやいたのにならってつぶやいてはいけません。彼らは滅ぼす者に滅ぼされました。

10:11 これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世



の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです。

10:12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけなさい。

10:13 あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。

8章から始まった偶像の問題がまだテーマとして続いているというのが、多くの註解者たちの見解です。(前章は、「偶像に関連する問題も信仰の自由」いう人々に対して、本当の自由とは何かを説いており、その流れで働き人の報酬や宣教についての真理にも触れていたのです。)

偶像礼拝を警戒させるために、イスラエルの過去について思い起こさせています。教会が1つであるように、イスラエルも1つでしたが、神のみどころにかなわず滅ぼされたのです。それは偶像礼拝のためでした。

クリスチャンで像を拝む人はほとんどいないでしょうが、神以外のものを神の位置に置いてしまえば偶像礼拝ということになるでしょう。偶像を拝むのは自分の願望・欲得のためですから、神以外のものを神のようにしてしまうときも、同じように願望・欲得がまさっていないか、警戒する必要があります。イスラエルのように姦淫、主を試す、つぶやくなどということがないかどうか警戒しましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



10:14 ですから、私の愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。

10:15 私は賢い人たちに話すように話します。ですから私の言うことを判断してください。

10:16 私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちの裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。

10:17 パンは一つですから、私たちは、多数であっても、一つのからだです。それは、みんなの者がともに一つのパンを食べるからです。

10:18 肉によるイスラエルのことを考えてみなさい。供え物を食べる者は、祭壇にあずかるではありませんか。

10:19 私は何を言おうとしているのでしょうか。偶像の神にささげた肉に、何か意味があるとか、偶像の神に真実な意味があるとか、言おうとしているのでしょうか。

10:20 いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。

10:21 あなたがたが主の杯を飲んだうえ、さらに悪霊の杯を飲むことは、できないことです。主の食卓にあずかったうえ、さらに悪霊の食卓にあずかることはできないことです。

10:22 それとも、私たちは主のねたみを引き起こそうとするのですか。まさか、私たちが主よりも強いことはないでしょう。

偶像との実際的な関わりについてパウロは警戒を促します。特に偶像にささげられた肉についてです。ささげられたからと言って、それで肉の状態そのものが変わるわけではありませんから、何も問題がな

いようにも思えますが、パウロは悪霊との関わりに線引きができなくなることを警戒するようにと戒めています。

偶像とはただの物体ですから、何もない空虚なものです。しかしその偶像を用いて悪霊が人間に影響力を行使するのです。「クリスチャンには何も禁じられていないから」と言って、無差別に受け入れることは危険です。偶像や世の悪しき習慣を無警戒で受け入れるのではなく、信仰や救いに害にならないかどうか、吟味して判断しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

